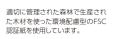
# CSR 報告書 2014























美

地 球

### TANAKAグループの企業理念と行動指針

企業理念

TANAKAグループは、 貴金属のリーディングカンバニーとして、 創造性あふれる技術力をもって、 お客様の信頼と期待に、スピーディーに応え、 貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と、 美しい地球の未来に貢献します。

行動指針

TANAKA人 5ヵ条 私たちは、お客様から選ばれ続けるため、 常に感動を創出し、謙虚に学ぶことを忘れず、 日々、5ヵ条を実行します。

 1.あいさつ
 Greetings
 心を込めた挨拶で、信頼の絆を結びます。

 1.えがお
 Smile
 明るくのびのびと、笑顔で輝き続けます。

 1.かんしゃ
 Thanks
 感謝の心で、ゆたかな人間力を育みます。

 1.あんぜん
 Safety
 安全を最優先し、最高の仕事をします。

 1.ちょうせん
 Challenge
 柔軟な発想で挑戦し、夢を実現します。

TANAKA

### 編集方針

CSR報告書は、貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と美しい地球の未来に向けたCSR(企業の社会的責任)の取り組みをステークホルダーの皆様に報告し、コミュニケーションを図っていくことを目的に発行しています。

2013年版よりデザインコンセプトとして新しく採用した「贈り物」を継承し、わかりやすく、読みやすいCSR報告書を心がけ編集しています。 皆様のお声をTANAKAグループの今後の取り組みに活かしていきたいと考えておりますので、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

### 対象期間

2013年4月1日~2014年3月31日

但し、各テーマに沿った会社の活動の全体像を知っていただくために、一部対象期間外の内容も掲載しています。

### 対象範囲

TANAKAホールディングス株式会社と連結子会社を含むグループ全体を対象としています。 なお、対象範囲が異なる場合は当該箇所に明示しています。

### 発行時期

2014年7月

### 参考ガイドライン

(一財)日本規格協会[ISO26000:2010]

### ウェブサイト

本報告書の閲覧はバックナンバーを含め、右のウェブサイトをご利用ください。http://www.tanaka.co.jp/csr/index.html

### 発行責任部署

TANAKAホールディングス株式会社 CSR・広報本部 CSR推進部 〒100-6422 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビルディング22階 TEL 03-6311-5506(直) FAX 03-6311-5508 ホームページ http://www.tanaka.co.jp/

### TANAKAグループの事業

産業の発展を支える貴金属の可能性を最大限に追求しています。近年は、世界的に重要度の高まる医療や環境・エネルギーの領域に注力しています。



### 産業用

- ●Au-Ag系事業
- ●化学回収事業
- ●PGM系事業
- ●HDターゲット事業
- ●触媒開発事業
- ●ボルディングワイヤー
- めっきプロセス



### 宝飾用

人生のさまざまなシーンを輝かせる宝 飾品を、長く愛するにふさわしい確かな 品質で提供しています。

●ジュエリー

●工芸品

●買取・リサイクル

●記念品·贈答品



資産用

貴金属を資産としてご活用いただくために、確かな品質の金やプラチナの地金(じがね)やコインを製造・販売するほか、積立プランも提供しています。

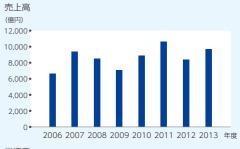
- 地金(じがね)
- 積立プラン
- ●コイン

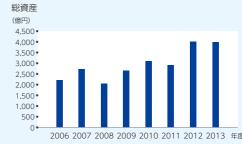
### TANAKAグループ業績

### ■業績要約

	2012年度	2013年度	前年度比
売上高	839,264	967,665	115.3%
税引前利益	17,141	12,177	71.0%
当期純利益	10,338	7,510	72.6%
総資産	401,485	398,955	99.4%
自己資本比率	40.3%	42.8%	-
			百万円









田中貴金属工業(株)は、ロンドン地金市場協会(LBMA)より、金および銀の公認審査会社に任命されています。また、ロンドン・プラチナ・パラジウム・マーケット(LPPM)の公認審査会社にも任命されています。どちらも、世界でTANAKAを含む5社のみ(国内ではTANAKAのみ)が、貴金属の公認溶解業者の溶解技術・分析能力を審査する使命を担っています。

### CONTENTS

()() 企業理念/編集方針

)1 TANAKAグループの事業/ 財務情報/目次

02 トップメッセージ

O4 TANAKAグループの 事業拠点

06 組織統治

08 人権

09 労働慣行

12 環境

16 公正な事業慣行

18 消費者課題

20 コミュニティへの参画及び コミュニティへの発展

22 セキュリティー・BCP/M・ リスクマネジメント

24 第三者所感

25 TANAKAグループより/ アンケート結果

01 TANAKA CSR REPORT 2014

# 「2020年のありたい姿」への成長を支える CSR活動の推進

自由闊達な企業風土を継承し、貴金属事業の3本柱<産業用・資産用・宝飾用>の更なる推進による グローバル企業への成長・発展を支えるために、積極的にCSR活動を推進しています。

2012年12月安倍政権が発足し、2013年度は新しい 政治体制の中で迎えることとなりました。安倍新首相は 自らの政権を「危機突破内閣」と命名し、「大胆な金融政 策】、【機動的な財政政策】、【民間投資を喚起する成長戦 略】の3本の矢を基本方針に、デフレ脱却及び経済成長 を目的とする大胆な経済政策を進めて行きました。この 通称『アベノミクス』と呼ばれる経済政策により、株価の 上昇、円高、失業率及び求人倍率の改善等、景気回復に 向けた明るい兆しが見え始めてきました。これに伴い輸 出企業を中心に企業業績が回復し、実質GDPも2013 年度第1四半期以降上昇を続けており、消費者物価指数 も上昇、当初の安倍政権の目標であるインフレ率2%も 達成できそうな状況です。

しかし一方、企業の業績改善によって拡大するとみら れていた設備投資と賃金の伸びはまだ十分とは言えま せん。また東日本大震災による福島原発事故の影響に より、現在もエネルギーを化石燃料に頼らざるを得ず、 このため貿易収支は赤字となり、さらにTPP交渉への参 加、消費税の増税等、日本経済にとって厳しい政策も打 ち出されているため、今後の国内経済の先行きが不透 明である事も否めません。

このような状況の中TANAKAグループにおいては、 世の中の景気回復に遅れを取るまいと、従業員一同結 束を強め事業活動を継続し、その成果として2012年度 上期から業績は上向きつつあり、特に2013年度後半は 宝飾用貴金属の売り上げも好調に推移しています。さら に2014年度から"GOGO計画2020"と命名し、新しい 中期経営計画を立て活動する事を決めています。この中 期経営計画では『1つの課題に臨む際は、役職や勤続年 数、経歴を越えて自由に建設的な意見を出し合い、仕事

をよりよいものにしていくという風土』を持ち、『産業用 事業、資産用事業、宝飾用事業の貴金属の3本柱につい て展開している製品、商品、技術、サービスのレベルが卓 越』しており、『世界中の同業他社、お客様からその存在 を認められている企業。均質なオペレーションがグロー バルに展開できている企業 [を"ありたい姿"として設定 しています。

### 2020年のありたい姿

自由闊達な企業風土を継承し、 貴金属事業の3本柱の 更なる推進によりグローバル企業に 成長・発展している

今やCSRは世界中の企業に求められているため、 GOGO計画2020のありたい姿である"グローバル企 業"として成長、発展するためには、この推進が必須条件 となっており、2013年度もCSRの活動を積極的に推進 してきました。

その活動を振り返りますと、特筆すべきは中期経営計 画の課題の一つとして取り組んだCO₂及び産業廃棄物 の排出量削減で大きな成果をあげたことです。具体的に は2009年度からの中期経営計画(通称フェニックス5) において、2006-2008年度の平均値を基準値とし、 2013年度までにCO2排出量を25%、産業廃棄物排出 量を50%削減するという大きな目標を立て、実行してき



ました。これに対し2013年度、CO2排出量は22%、産業 廃棄物排出量は51%の削減を達成しました。CO2排出 量の削減に関しては残念ながら目標には届かなかった ものの、世の中の取り組み状況と比較しても、十分に胸 を張れる成果であります。これも生産部門をはじめとす る全従業員が、『美しい地球の未来に貢献します』という 企業理念のもと、一丸となって活動した結果であると考 えています。

また社会貢献という観点では、東日本大震災の発生 以降、毎年復興のためのボランティア活動を企画、実施 しています。2013年度は「記憶の継承」をテーマに、社 員の募金活動を通じて、被災地へ30本の桜の植樹を 行いました。GOGO計画2020の最終年度となる 2020年度はTANAKAグループ創業135周年にあた るため、この年までに135本の桜を植樹することを目 標とし、今後もこの活動を継続して行きます。これらの 桜は避難の目安となる津波到達点付近に植えられま す。3年後には、人々の安全を見守るように綺麗な花を 咲かせることでしょう。

それ以外にも『日本パラリンピックのオフィシャルパー トナーとして障がい者スポーツの普及支援』や『高専口 ボコンへの協賛による未来の科学者となるべき若い世 代の支援』、また地域清掃への参加や各種慈善団体への 寄付などのボランティア活動等、さまざまな社会貢献活 動をグループを挙げて積極的に行っています。

さらに2013年度のトピックスとしては、弊社のセキュ リティーやコンプライアンスを重視する姿勢が認めら れ、AEO特定輸出者の認定を受けることができました。 これにより貨物の迅速かつ円滑な輸出が可能となり、海 外のお客様に対しリードタイムを大幅に短縮した形で製 品をお届けすることができます。

そして何よりも大事なのは従業員の安全と健康です。 『安全を最優先し、最高の仕事をします』という言葉を行 動指針の一つとし、全社一丸となって事故、災害の撲滅 に取り組んでいます。

本CSR報告書はわが社の2013年度CSR推進活動の 集大成であり、本報告書をご覧いただくことで、TANAKA グループがCSRを積極的に推進するグローバル企業で あることを改めて御認識いただけるであろうと信じて います。

TANAKAホールディングス株式会社 代表取締役社長





# 

### TANAKAホールディングス株式会社 (THD)

田中貴金属グループを統括する持株会社

社: 1 東京 丸の内

大阪本社:2大阪





### 田中貴金属工業株式会社 (TKK)

各種貴金属工業製品及び 貴金属地金の製造・研究開発

社:①東京 丸の内 流通センター: 13 湘南管理センター



・クラッド材 ほか

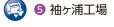


・線材、板材 ・リベット型複合接点 ・貴金属パイプ ・銀ろう ・金、銀ターゲット ほか



· 白金族系貴金属回収·精製

・白金族系貴金属化合物 ・各種触媒の製造 ほか



· 白金族系貴金属回収·精製



・白金系素材加工 ・ガラス溶解用白金装置

・各種センサ用材料 ・白金系ターゲット ほか

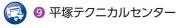


・電子部品用材料 ・融着加工品 ほか

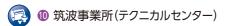


クロスバー型電気接点

· 金銀系貴金属回収·精製、回収装置 · 金銀系貴金属化合物 ・不溶性電極 ・各種めっき加工 ・厚膜ペースト

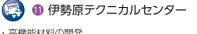


・貴金属を用いた高機能材料の開発 (医療、自動車、エネルギー分野)

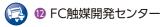


· 化学系技術開発

・白金系ターゲットの製造



・高機能材料の開発



燃料電池用電極触媒の開発/製造

## 世界におけるTANAKA

TANAKAグループは、3つの主要事業(産業用、資産用、 宝飾用) における 研究開発・生産・販売等の拠点を、日本およびアジア諸国、 北米、欧州に展開しています。









田中貴金属グループ製品の輸出入販売

社: 1 東京 丸の内 海外拠点: 2 ソウル支店

3 香港支店

4 台北支店 5 高雄党業所

6 マニラ駐在員事務所

7 田中貴金属(上海)有限公司

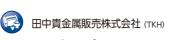
8 // 深圳分公司

9 田中貴金属インターナショナル (アメリカ) 株式会社 10 // サンノゼ支店

11 田中貴金属インターナショナル(タイランド)株式会社

12 田中貴金属インターナショナル(欧州)(ドイツ)有限会社 13 田中貴金属インターナショナル(マレーシア)株式会社

14 田中貴金属(シンガポール)株式会社



田中貴金属グループ製品の国内販売

社:①東京 丸の内 国内拠点:②仙台支店 6 大阪支店

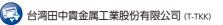
6 横浜支店 4 長野支店

8 福岡支店 ⑤ 名古屋支店 ⑤ 滋賀営業所

Japan

🥖 岡山支店





各種電気接点、線材加工、回収·精製

本

場:2新竹(台湾) 3湖口(台湾)



貴金属及びその関連製品、部品の回収、精製、加工及び販売



ゴールド・プラチナジュエリー、インポートジュエリー ブライダルジュエリー、工芸品、リフォーム、 各種記念品の販売、貴金属地金・コインの売買 RE:TANAKA(貴金属製品の買取り)

8

① 銀座本店

③ ホテル椿山荘東京店

8 心斎橋店

🧷 栄店(ブライダル専門店) 9 福岡天神店

⑩ 新潟三越店



社: 1 東京 丸の内

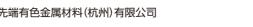






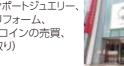
社: 11 台北(台湾)





社: 1 杭州(中国)





舗:GINZA TANAKA

② 新宿店

6 仙台店 4 横浜元町店 ⑥ 名古屋店

田中貴金属グループの間接業務の委託及び管理

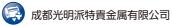






成都光明田中環保技術有限公司 (CGTEC)

ガソリン及びディーゼルエンジンの排ガス浄化触媒開発・製造・販売 本社工場: 1 成都(中国)



貴金属販売、貴金属加工品の製造、販売

社: ① 成都(中国)

TANAKA CSR REPORT 2014





































TANAKA CSR REPORT 2014



台湾田中電子股份有限公司 (TET) 各種ボンディングワイヤの製造、顧客への技術支援・サービスの提供



顧客への技術支援・サービスの提供 所在地: 8台中(台湾)

田中電子工業株式会社 (TD) 各種ボンディングワイヤの開発・製造

顧客への技術支援・サービスの提供

各種ボンディングワイヤの製造

各種ボンディングワイヤの製造

各種ボンディングワイヤの製造

所在地:7中壢(台湾)

本

顧客への技術支援・サービスの提供

田中電子(杭州)有限公司 (TEC)

顧客への技術支援・サービスの提供

社: 6 杭州(中国)

社: 5 ペナン(マレーシア)

顧客への技術支援・サービスの提供 社:4 シンガポール

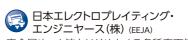
社:①東京 丸の内

場: ② 佐賀 ③ 湘南分工場

□中エレクトロニクス・シンガポールPte.Ltd. (TES)

□中エレクトロニクス・マレーシアSdn.Bhd. (TEM)

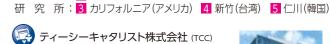




貴金属めっき液をはじめとする各種表面処理剤や めっき装置、検査装置等の製造販売及び研究開発

社: 1 東京 丸の内

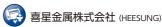
事業所:2平塚



ガソリン及びディーゼルエンジンの 排ガス浄化用触媒開発・製造・販売

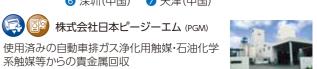
社: 1 東京 丸の内 研究所:2筑波

(田中貴金属工業(株) 筑波事業所



各種貴金属製品 本社工場:①朱安(韓国)

事務所: 2 ソウル(韓国) 場: 3 南洞(韓国) 4 佳佐(韓国) 6 深圳(中国) 7 天津(中国)



5 道禾(韓国)

本 社: ① 東京 秋葉原 場: ② 小坂(秋田) 3 ニュージャージー(アメリカ) ④ リベレツ(チェコ)

系触媒等からの貴金属回収





グローバルに展開する企業にふさわしいガバナンス体制を構築し、 ISO26000を基軸としたCSRを推進します。

### (コーポレート・ガバナンス)

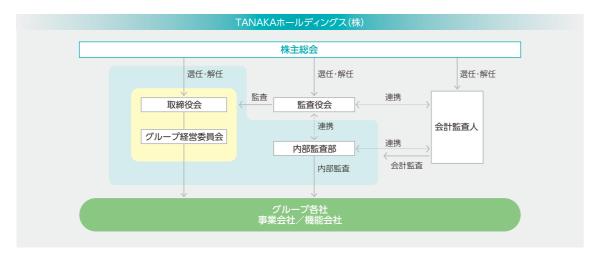
### コーポレート・ガバナンス体制と内部統制システム

効率的で競争力のある経営を実現するために、最適な経営体制の構築と適正な企業運営を行うとともに、これを実行するた めの経営・監視の仕組みを充実させ、健全性・透明性の高い経営に努めています。

またお客様・従業員・株主をはじめとする全てのステークホルダーの権利と利益を尊重し、適法かつ妥当な業務執行、適正かつ 透明な会計等を実現するための企業経営を行うことを目的に、コーポレート・ガバナンス及び内部統制の原則を定めています。

この原則に基づき、経営目的の達成に向けた内部統制システムを構築・運用しています。本システムの中で取締役会、グルー プ経営委員会、内部監査部がそれぞれの役割を確実に実行する仕組みとなっています。

### ■コーポレート・ガバナンス体制



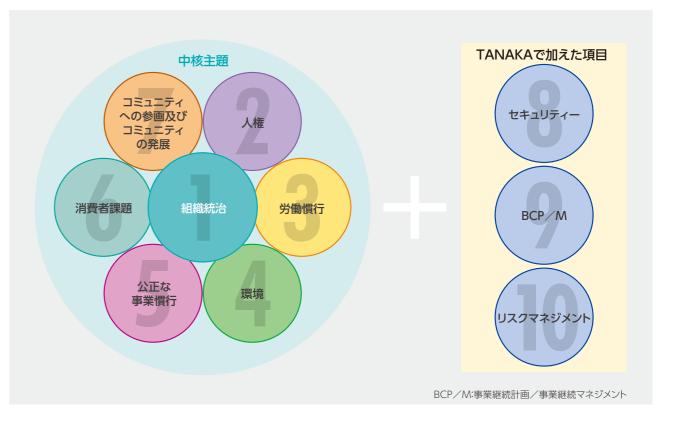
### CSRマネジメント

### CSRに関する考え方

TANAKAグループは、産業用製品、資産用地金、宝飾用貴金属の3つを柱として事業を推進し、グローバル企業として発展 すべく、中期経営計画を立案し、実行しています。この計画のもと、今後も貴金属のリーディングカンパニーとして、お客様の信 頼と期待にスピーディーに応えます。更に健全な企業活動を推進し、日本のみならず、海外拠点においても地域の一員として の社会的責任を果たすことに努め、『貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と美しい地球の未来に貢献』することによ り、「世界の"TANAKA"」としての地位確立を目指します。

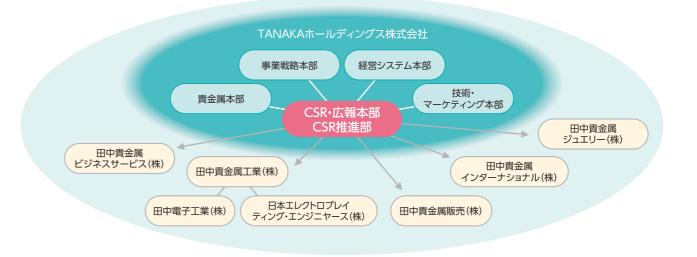
現在国内外を問わず、企業には法令遵守、人権擁護、労働環境の整備、環境保護、消費者保護、地域貢献を経営活動に反映 させることが求められています。そのため企業はステークホルダーに与える影響をこれまで以上に考慮し、CSR活動をより推 進する必要があります。2013年度も、社会的責任に関する国際規格「ISO26000」の中核主題と、従来から取り組んでいる TANAKA独自の3課題を加えた10の課題をベースにCSR活動を推進しました。

### ■CSRマネジメントの考え方



### CSR推進活動

TANAKAグループのCSR推進活動は、経営課題のひとつとしてCSR・広報本部、CSR推進部と各拠点とが連携して進め ています。



多様な"人財"が活躍できる職場の創造に取り組んでいます。 そして、「気づかせる教育、業務に結びつく人財教育、就業時間の20%は教育」を モットーに、体系的・計画的な育成を行っています。



### 基本的な考え方

「貴金属のリーディングカンパニー」として揺るぎない信用と信頼を築くために、健全な事業活動を推進しています。

その中でも人権尊重に関しては、労働基準法の遵守だけではなく、2008年11月に発刊した「行動憲章」、「行動規範」の中で、『あらゆる事業活動の範囲において、基本的人権を尊重し、差別的な取扱をしないこと』及び『児童労働や強制労働を認めないこと』を宣言しています。さらに2009年2月には英語版と中国語版の「行動憲章」、「行動規範」を作成、海外のナショナルス

タッフにも配布、教育を行い、海外拠点においても人権が尊重される環境を整えています。

またパワーハラスメントやセクシャルハラス メントなどの問題に対応するため、社内通報制 度を活用し、迅速かつ公平な解決を図るための 体制を整えています。



### 社内での人権教育

公益財団法人東京都人権啓発センターの協力を得て、人権問題への意識向上を目的としてグループ幹部に対し人権教育を行いました。同和問題をはじめとする国内の人権問題に関し講演会を開催し、人権の大切さを改めて共有しました。



### (雇用·人材育成)

### 雇用

「貴金属is未来」に込められた考えのもと、人財の多様性を大切にしています。新卒採用活動に注力するのはもちろんのこと、女性にとって優しい職場を目指しながら、外国籍の方、障がいのある方も能力に応じて採用しています。世界を舞台に繰り広げられる企業競争を勝ち抜き、「世界のTANAKA」となるには、多様な人財が活躍することが必須だと考えています。

なお、社員は企業の財産であるとの考えから、「人財」と表記しています。

# TANAKAグループ社員情報(2014年3月末現在) 社員数 3,507人 (3,509) 国内 2,714人 (2,733)

社員数	3,50/人	(3,509人)
国内	2,714人	(2,733人)
海外	793人	(776人)
平均年齢	41.2歳	(41.0歳)
男性	42.0歳	(41.9歳)
女性	39.4歳	(38.8歳)
障がい者雇用率	1.43%	(1.80%)

### ※()内は前年度

### 女性にとって優しい職場を目指す

育児休業制度や短時間勤務制度について法定を上回る運用をしてきました。 2013年度より人事諸制度を改訂し、女性社員が更に活躍できる、継続して働くことのできる環境を作りました。今後は、運用の安定及び社員の方々が活用しやすい環境づくりを更に推進していきます。

### ■育児休暇等制度の利用人数(2013年度)

妊娠時短時間勤務	2名
育児休暇	45名
育児短時間勤務	48名

### 障がい者雇用の促進

グループー丸となって障がい者雇用に努めています。例えば、アスペルガー症候群の方をトライアル雇用したり、知的障がい者の工場実習を受け入れる等の試みを実施しています。2014年4月には新卒で3名の障がい者が入社しました。

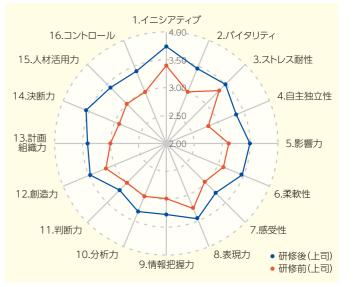
### 人材育成

職場の第一線監督者を対象にしリーダーシップ研修を実施しました。受講者については、「自主独立性」「影響力」「決断力」など16項目全てにおいて上司の評価が上昇しました。

なお、リーダーシップ研修に続いてマネジメント研修、外部幹部研修等の研修による人財育成を実施しています。 <研修後の上司のコメントから>

自分の意思を先に主張する場面が増え、頼もしい。リーダーとしてメンバーへの働きかけの量がかなり増えた。全体的に凄みを増した感じが見受けられる。リーダーであることの責任感を持って仕事をしている姿勢を強く感じる。会議で前向きな発言をしたり、通常業務内での明確な指示を出すようになり、リーダーとしての積極性が見られるようになってきた。

### ■研修前後での上司の評価 (受講者24名の平均)



2020年度のありたい姿「相互に協力し、安全・安心・明るい職場を維持している」に向けて、 安全管理活動を推進します。



### (安全衛生)

2013年度中央安全方針 "階層間及び職場内のコミュニケーション"を活性化し"情報共有の充実"を図り「安全文化」の醸成を推進する

重点施策 1 危険予知(KY)能力に磨きをかけ、安全意識を向上させ安全文化醸成の基盤を造る

- 2 SA·RA等を徹底活用し、事故・災害を事前(コトマエ)に発見する安全管理活動を推進する
- 3 専門部会の活動成果を施策・制度化し、継続運用を図る
- 3-1)安全教育体系の整備と制度化 3-2)安全管理規定に準拠した、規程・基準類の改廃及び新規制定

活動指針 安全管理活動は全従業員の個人宣言(コミットメント)から始まる

- I 管理・監督者は安全に対する考え方とその取組みを事前に表明(コミットメント)し、ラインの管理・監督にあたる
- Ⅱ 全従業員は上長の事前表明を受けて、事故・災害及び交通事故の撲滅に関する個人目標を自ら宣言(コミットメント)し、実践する

### 安全管理活動の状況

2010年度下期より2013年度まで、従来の安全活動に加えて、不安全行動、不安全状態を積極的に取り除く「不安全撲滅活 動」を実施してきました。その結果、2013年度は、生産部門での労働災害の発生件数を確実に減少させることに成功しました。 ただし、間接部門では通勤災害が例年になく多く発生しました。

一方、交通事故に関しては、通勤時、休日等のプライベート時を含めた交通事故発生件数は2008年度から増加を続け、2012 年度に過去最多を記録しましたが、2013年度は交通KYT(危険予知訓練)等の日々の活動を着実に積み重ねることで、減少させ ることができました。2014年度は新たな中期経営計画に合わせて、2020年度のありたい姿を設定しました。現状とのギャップを 埋めるための活動を順次、立案・策定・実行し、2020年度のありたい姿へ到達するべく、安全管理活動を更に推進します。

### 不安全撲滅活動

活動期間:2010年10月~2014年3月 主な活動:

全社安全月間活動 5月と11月

ヒヤリハット提案に対する褒賞金

半期(6ヵ月)ごとの人的無災害に対する表彰と副賞

総括安全衛生管理者による安全立哨

~1時間/回を3回/週 実施

今後はこれらの活動を継承し、さらに2020年度のあり たい姿を目指します。

### GOGO計画2020 中央安全方針

"安全を最優先し、安全・安心・明るい職場を確立する"

ありたい姿 相互に協力し、安全・安心・明るい職場を維持している

あるべき姿 全意識が向 トし、自分の安全は自分で確保することができ

【助走期】全社員が知恵を出し合い、安全安心な職場を目指した 活動を行うと同時に、従来通りの安全管理活動を推進する

現状 【現状】さまざまな施策を実行するも、災害、事故が減らない 2013 2014年度

2017年度

2020年度

TANAKA NOW I 田中貴金属工業(株) 湘南工場 笹尾 柚里

回収物の受け入れでは、軽量のものから1tを超えるものまで入荷するため、フォークリフトを使用し ないと計量ができません。もっと業務に貢献したいという思いから、自ら申し出て、免許取得の実現と なりました。自分の仕事に興味を持ち、仕事の幅を広げることで自信がつきました。女性でも活躍でき る職場が増えるのはいいことだと思います。安全運転を心がけ、自職場に貢献できるよう頑張ります。



TANAKA NOW EPpage EPpage III 中貴金属工業(株) 平塚工場 清水 理恵

日ごろから荷降ろしの際など、免許を持った人にお願いしなくてはならず、手間も時間も掛かって いました。他社の女性社員が免許講習を受講していたのを見た上司が話を持ちかけ、免許取得の 実現となりました。最初の頃はハンドル操作に苦戦しましたが、とにかく毎日運転することでフォーク リフトに慣れることができました。仕事の幅も広がり資格を取って本当によかったと感じています。

### 2013年度の各事業場の安全衛生活動より

### 田中貴金属工業(株) 富岡工場/交通事故ゼロを目指して

富岡工場では交通事故ゼロを目標に全員参加で活動しています。月1回の交通KYT を中心とした活動により、運転時の危険予知能力向上及び安全運転ポイントを踏まえた 運転技能習得を図っています。KYT報告書は、管理者がコメントしたうえで掲示し、グル 一プ間で情報を共有しています。さらに、安全運転の意識継続のため、各職場の朝礼で

は週に1回以上は交通安全を話題としていま す。2012年度の交通事故発生件数は過去最 多の16件でしたが、2013年度は加害・被害各 1件と大幅に減少させることができました。今 後も活動を継続し交通事故ゼロを目指します。





**東北海北部城市**和

### 田中電子工業(株)佐賀工場/佐賀労働局長表彰(2013年度)

佐賀労働局より、「地域の中で、安全衛生に関する水準が良好で改善 のための取り組みが他の模範と認められる」として、佐賀労働局長奨励 賞を受けました。



### 受賞理由

- 1) OHSASによる安全衛生体制を確立し、年間安全衛生計画のPDCAサイクルが定着している。
- 2)機械導入時のセーフティアセスメント実施など、機械の本質安全化への取り組みを徹底している。
- 3)ヒヤリハット報告を毎月1人3件以上を目標とし、毎月500件以上の報告がなされるなど、 ヒューマンエラー防止のための創意工夫により労働者の安全意識向上を図っている。



### 田中貴金属工業(株)市川工場/水素使用時に音楽

分析試料を水素還元する際、水素 バルブを開にすると音楽が流れ、パト ライトが点灯するよう、設備を改善し ました。これにより、周囲の作業者に 作業中であることを知らせるとともに 作業終了後のバルブの閉め忘れを防 ぎます。



対策した理由は作業終了後、水素の枝栓を関

### 日本エレクトロプレイティング・エンジニヤース(株)/保護めがね着用区域の表示・荷崩れ防止対策

作業区域内での保護めが ね着用区域に青色テープを 貼り着用区域の見える化を 図っています。



荷崩れ防止対策として、ゴ ムバンドによってポリ容器を 4個単位で固定しています。



10

# 環境マネジメントシステムの運用で 環境経営透明性を向上

環境マネジメントシステムを基盤に、グループ全体で継続的な環境負荷低減に取り組んでいます。環境負荷を 包括的に把握するとともに、環境効率指標や環境会計も活用し、環境経営の品質と透明性の向上に努めています。



### 環境マネジメントシステム

環境マネジメントに関する国際規格[ISO14001]の認証を国内全事業場で取得し、継続的な環境保全活動を実施していま す。また、グループ全体での目標を定め、CO2排出量削減活動等、環境負荷低減に積極的に取り組んでいます。

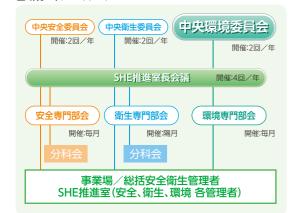
これらの活動を確実に実行する為に環境マネジメントシステム体制を組織しています。各事業場の総括安全衛生管理者で 構成される中央環境委員会を最上位とし、SHE推進室長会議、実務者(環境管理者)で構成される環境専門部会を定期的に開 催し、環境保全活動を効率的かつ効果的に推進するために、情報共有及び積極的な意見交換を重ねています。

### 環境コンプライアンス

大気及び水質等については原則として法令基準値の2分の1を社内管理値とし、法令を遵守するだけでなく、環境負荷を出来 るだけ抑えた事業活動を目指しています。

さらに、異常発生に対しては、早期対応・再発防止・啓蒙のために社内「速報」による情報伝達を行うとともに、「通報・届出基準」 に基づく関係行政当局への連絡体制を確立しています。

### ■環境マネジメントシステム



### ■異常発生時の対応体制



### 2013年度環境方針と目標

方 針 急激なエネルギー環境の変化に、柔軟な発想で挑戦し、環境負荷低減を実現します。

重点施策 Ⅰ 全員参加の活動と、老朽化で効率の悪くなった設備の入替により、エネルギーコスト上昇分を克服するCO₂削減活動を加速する。 II 分別(性状、濃度)と3R(Reduce、Reuse、Recycle)の徹底により、資源の有効利用を図り、廃棄物削減を目指す。

■ SA(セーフティアセスメント)手法を用いることにより、事前(コトマエ)主義で環境異常撲滅を図る。

標 I CO₂排出量削減 基準年度比25%削減 II 産業廃棄物削減 基準年度比50%削減 II 環境異常撲滅 発生件数0件

※基準年度(2006年度~2008年度)の3年平均値を基準値としています。

### 基本的な考え方

社員一人ひとりの環境意識向上を基礎として、方針に基づき、具体的な目標値の達成を目指しています。CO2及び産業廃棄 物に関して、2013年度は2006年から2008年の3年間を基準年度とした削減活動の最終年度として、目標値であるCO2排出 量25%削減、産業廃棄物排出量50%削減を目指しました。また、事前に策を講じる事前(コトマエ)主義によって環境異常撲滅を 目指しました。

2014年度からは新たな目標値を設定し、活動を継続しています。

### CO2排出量削減活動

2013年度は、CO2排出量削減に効果的な設備を更新し、加え て社員全員が一人ひとり積極的に削減活動に参加しました。結 果として、基準年度比25%削減の目標にはわずかながら及びま せんでしたが、22%を削減することができました。

全社員一丸となった活動の中で、特に削減に大きく貢献した富 岡工場、伊勢原工場の活動について紹介します。



富岡工場では、老朽化した冷却用チラーの更新やコンプレッサーの更新及び運転方法の変更、照明のLED化等を行いまし た。さらに、夜間や休日で使用していない設備は確実に電気を止める、空調の管理温度を定めるとともに使用状況を記録する 等、個人でできる活動を着実に行いました。結果として、目標値を上回る基準年度比27%削減を達成しました。

伊勢原工場ではトップの強いリーダーシップのもと、コンプレッサーの入れ替え、電気炉の改修等の設備改善を行いまし た。また、場内照明の手元スイッチ化を進め、作業時間以外や現場を離れる際には確実に消灯する等の個人の活動に加え、 電気炉等の排熱を作業場の暖房に利用する等の対策を実施しました。結果として、目標値を大幅に上回る基準年度比33% 削減を達成しました。

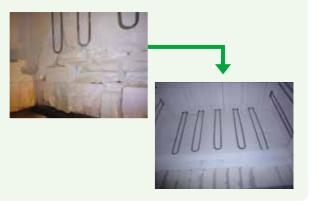
### 田中貴金属工業(株)富岡工場/ 照明のLED化による電力削減

水銀灯をLEDに交換し、さらに高さを変更することで 照度を確保しました。



### 田中貴金属工業(株)伊勢原工場/ 電気炉改修による電力削減

炉内の断熱材を改修し、保温性を向上させました。





TANAKA NOW I 田中貴金属工業(株) 伊勢原工場 原田 慎也

活動開始直後に新しい建屋が増設され使用電力量が増加しましたが、3年間の活動を通じた伊勢 原工場従業員全員の活動に対する高い意識と協力の結果、大幅に目標値を上回る削減結果を成し 遂げることが出来ました。

今後も新たな目標に向かって「全員参加のCO₂排出削減活動」を継続していきます。

取り組んでいます。それぞれの現場に適した改善策をさまざまな角度から考案し、コツコツと積み上げています。

■産業廃棄物排出量

13,156 12,324

15,000 •

10,000 •

5.000 •

### 産業廃棄物削減活動

2013年度は、工程改善や設備投資などを積極的かつ効果的 に実施することにより、目標値の基準年度比50%削減に対し、 51%削減を達成しました。

全体の9割以上の産業廃棄物を排出する化学工場(湘南、市 川、袖ケ浦の3工場)では、お互いの特徴を理解し、相互に協力し 合い、新規設備の導入も含め様々な対策を着実に実施しました。

各事業場の取り組みを紹介します。

湘南工場では、新規設備を導入し廃棄物として排出していたシアン含有廃液を減容化する等のさまざまな施策により、 基準年度比52%削減を達成しました。

市川工場では廃液の分別を徹底し、その一部を湘南工場での使用薬品として再利用する等のさまざまな施策により、 基準年度比47%削減を達成しました。

岩手工場や筑波事業所では、新しい排水処理設備を導入し、基準年度比70%以上の削減を達成しました。

### 田中貴金属工業(株)岩手工場/廃水処理方法の変更による産業廃棄物削減

従来、酸系廃水及び含油廃水を、傾斜重力分離装置、回転ドラム分離装置、油吸着機等の設備によって処理していまし た。しかし、含油廃液の分離回収能力が低く、濃厚含油廃液は全て産業廃棄物として外部業者へ処理委託していました。

酸系廃水及び含油廃水を同一の設備で処理するために、油分回収に効果的な浮上分離装置を導入しました。これによ り、含油廃液の外部処理業者への依頼が不要となり、産業廃棄物を大幅に削減することができました。さらに、使用設備 が浮上分離装置のみとなり、設備メンテナンスが軽減されました。

### 従来使用されていた主な設備







新たに導入した浮上分離装置



基準年度 2010 2011 2012 2013 年度

浮上分離装置

### TANAKA NOW EPHAGENT (株) 市川工場 木村 隆典



化学回収事業部に環境ビジネスグループが組織され、線の活動としての廃棄物削減技術の開発・ 対策実施、点の活動としての廃棄物削減会議における廃棄物管理関係者による徹底した意見交換 議論を重ねてきました。各工場が独自に行っていた削減活動には、設備と処理能力に限界があった 為、事業部全体で協力し、廃棄物をリサイクルし極力出さない仕組みを新たに構築しました。約2年 の期間がかかりましたが、ほぼ目標に近い削減結果を得ることができました。今回の活動を起点と し、今後は新たな目標に向かって、関係者のみに留まらない継続的な「全員参加の廃棄物削減活動」 へ発展させていきます。

### 環境異常撲滅活動

### 2013年度活動実績

各事業場において、大気(NOx等)や水質(BOD等)に関する過 去の環境異常に対して対策を確実に実行することにより、再発を 防ぐことができ、社内管理値オーバー等の環境異常発生は5件と なりました。

湘南工場ではNOx対策として、排ガス洗浄設備を製造現場に設 置しました。また、富岡工場では、BOD対策として浄化設備の管理 を強化し、メンテナンス要員を増員しました。

今後は、さらに事前に策を講じる活動を積極的に行い環境異常 ゼロを目指します。



### 環境会計

環境経営の品質と事業活動の透明性の向上を図るために、環境への取り組み を財務データと結びつけた「環境会計」を実施しています。 なお、本報告書では以下を算出し、集計しています。

- 1) 環境保全コスト
- 2) 当社の環境活動の特徴を表した独自の分類によるコスト
- 3) 環境省ガイドラインに準拠したコスト

### ■環境保全コスト(2013年度)

大気汚染防止のための排ガス・洗浄塔の		
人気万条防止のための排力人・洗浄塔の 新増設、測定費用、薬品費等	14.7 (9.5)	0.3 (0.0)
排水処理設備の改修費、水質検査、薬品費等	245.5 (327.6)	106.5 (63.8)
産業廃棄物処理費等	145.8 (153.8)	0.0 (0.0)
リサイクル処理費等	3.8 (13.0)	0.0 (0.0)
排気洗净塔防音壁設備費、土壌調査費等	1.4 (0.4)	0.0 (0.0)
人件費、ISO14001定期審查料· 年間登録維持料、CSR報告書作成費用等	226.4 (143.8)	0.0 (0.0)
・有害排ガスの発生を無くすため、水素と酸素の 化学反応を利用した燃料電池自動車等に 用いる燃料電池用電極触媒の研究開発 ・有機物や有害物質の悪臭を消臭するための 触媒の研究開発 ・自動車排ガス浄化触媒に用いる 三元触媒の研究開発	333.4 (695.8)	137.9 (138.0)
罰金・科料などはありません	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)
	970.7 (1,343.7)	244.7(201.8)
	排水処理設備の改修費、水質検査、薬品費等 産業廃棄物処理費等 リサイクル処理費等 排気洗浄塔防音壁設備費、土壌調査費等 人件費、ISO14001定期審査料・ 年間登録維持料、CSR報告書作成費用等 ・有害排ガスの発生を無くすため、水素と酸素の 化学反応を利用した燃料電池自動車等に 用いる燃料電池間・相で制度の研究開発 ・有機物や有害物質の悪臭を消臭するための 触媒の研究開発 ・自動車排ガス浄化触媒に用いる 三元触媒の研究開発	排水処理設備の改修費、水質検査、薬品費等 245.5 (327.6) 産業廃棄物処理費等 145.8 (153.8) リサイクル処理費等 3.8 (13.0) 排気洗浄塔防音壁設備費、土壌調査費等 1.4 (0.4) 人件費、ISO14001定期審査料・年間登録維持料、CSR報告書作成費用等 226.4 (143.8) ・ 有害排ガスの発生を無くすため、水素と酸素の化学反応を利用した燃料電池自動車等に用いるを影料電池用電極触媒の研究開発・ 有機物や有害物質の悪臭を消臭するための触媒の研究開発・ 1自動車排ガス浄化触媒に用いる三元触媒の研究開発 333.4 (695.8) 電金・科料などはありません 0.0 (0.0)

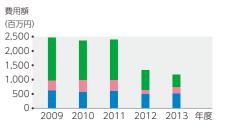
### 

「現現自ガイトノインに牛挽したコスト(2013年度)					
	項目	費	用額	投資	資額
事業	①公害防止コスト	220.9	(304.7)	62.3	(54.3)
事業エリア	②地球環境保全コスト	0.0	(0.1)	0.0	(0.0)
ア内	③資源循環コスト	149.5	(165.5)	0.0	(0.0)
上・下	流コスト	19.5	(0.0)	44.5	(0.0)
管理	活動コスト	247.4	(177.9)	0.0	(9.4)
研究	開発コスト	333.4	(695.4)	137.9(	138.0)
社会	活動コスト	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)
環境損傷コスト		0.0	(0.0)	0.0	(0.0)
総合	Ħ	970.7 (	1,343.7)	244.7	(201.8)

百万円 ※()内は前年度

### ■環境保全コスト

■環境保全活動 ■環境マネジメント活動 ■事業環境研究開発費





TANAKA CSR REPORT 2014

TANAKA CSR REPORT 2014

# 企業倫理に沿った経営のための仕組みを グループ全体で運用

法令遵守のみならず、企業倫理に沿った公正で健全な経営を実践しています。 コンプライアンスをリスクマネジメントの一環として捉え、問題点を迅速に把握し、対処する仕組みを TANAKAグループ全体で運用しています。



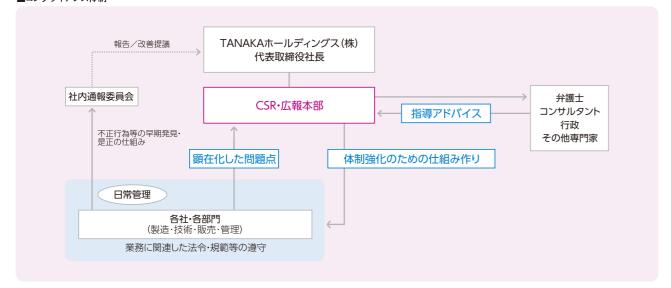
### 基本的な考え方

TANAKAグループでは、法令を遵守することはもとより、企業倫理に沿った公正で健全な経営を実践します。更に、各国及 び各地域の文化や慣習を尊重した事業活動にも努め、豊かで安全な社会の持続可能な発展に貢献します。

### 推進体制

コンプライアンス推進は、リスクマネジメントの一環として位置付けています。コンプライアンスに関する問題点や外部から の情報をCSR・広報本部に集約し、TANAKAグループ全体に展開しています。また、個別の重点分野に関する委員会を適宜設 けているほか、教育・研修も実施しています。

### ■コンプライアンス体制



### 知的財産権の保護

特許権、実用新案権、商標権、意匠権、著作権等の知的財産権及びノウハウは、企業の重要な財産であるとの認識のもと に、積極的に知的財産権の創出に努めています。2013年度はTANAKAグループ全体で39件の特許を取得しました。

新技術の研究、製品・商品の開発、生産及び販売にあたっては、第三者の知的財産権を尊重し、故意に侵害しないことはも ちろん、他社からの侵害行為に対しては各国の法令に則って厳正に対処しています。

### ■2013年度に取得した特許(例)

公報番号	発明の名称
特許第5203600号	• 体外診断薬用金コロイド
特許第5270132号	● 抵抗体ペースト及びその製造方法
特許第5243824号	• 白金コロイド溶液及びその製造方法
特許第5342931号	● 摺動接点材料及びクラッド複合材並びにモーター
特許第5308499号	●白金系熱電対

### 紛争鉱物への取り組み

紛争鉱物とは、コンゴ民主共和国及びその隣接国で不正に産出される鉱物資源のことで、組織的な虐殺行為や紛争の長期化を 引き起こしている武装勢力の資金源のため密輸等で不正取引されている鉱物です。米国では、2010年7月に成立した米国金融規 制改革法(通称:ドット-フランク法)で武装勢力の資金源を断つことを狙い、米国株式市場に上場する企業に対し、米国証券取引委 員会(SEC)にこれら地域で産出される4種の鉱物(金、タンタル、タングステン、すず)の使用状況の情報開示を義務付けました。

2012年に田中貴金属工業(株)は紛争鉱物に関してEICC/CFS(Electronic Industry Citizenship Coalition/Conflict-Free Smelter)の監査に合格し、認証を受けました。更に2014年度は第三者機関による貴金属業界の紛争鉱物に関わるマネジ メントシステム監査(LBMA監査)合格に向け、プロジェクトを組んで活動しています。これら紛争鉱物の取り扱いに関して は、TANAKAグループホームページに紛争鉱物管理方針を掲載しています。

### AEO「特定輸出者」の認定取得

田中貴金属インターナショナル(株)は、TANAKAグループ全社の物流過程や情報管理等のセキュリティーの再確認、コン プライアンスプログラムの見直しなど、15ヵ月間の準備・審査期間を経て、東京税関管内で87社目、全国で239社目の特定

輸出者の認定業者となりました。今回の認定取得により、今後更なる国際的な 販路の拡大を目指すとともに、お取引先である自動車電装部品メーカーや半 導体業界、家電業界等の電子部品メーカーなどに対して、素材メーカーの責任 としての安心と信頼を提供していきます。



### 安全保障輸出管理

TANAKAグループの製品や技術が、大量破壊兵器を開発している国やテロ集団に渡り転用され、国際的な脅威になるこ とを未然に防止するために、安全保障輸出管理体制を設けています。2013年度は運営組織や教育体系等の見直しを行い、 管理体制を強化しました。

グループ各社で連携し、適正な輸出管理に努めています。



TANAKA NOW EPB金属販売(株) 管理部 林 真己子

海外へ直接輸出しようとする製品が安全保障上での規制品に該当するか、否かの判定(該非判定) を行っています。判定には品名だけでは正確な判断がつかないため、製造側の協力を得ながらグル 一プ全社で取り組んでいます。当社の製品はお客様の多様なニーズに応え、組成や形状等の仕様 が同じものは、ほとんどありません。判定に見落としがないか、これまでの実績を確認しながら結論 を出すことは、緊張の連続で気が抜けない作業です。とかくスピードが求められる社会ではあります が、コツコツ地道に確かな判定を行っていきたいと思います。

お客様の信頼と期待にスピーディーに応えることを旨とし、常に感動を創出することを目指しています。 確かな品質の実現によってお客様との約束を守りながら、期待を超える対応にも注力しています。

### 基本的な考え方

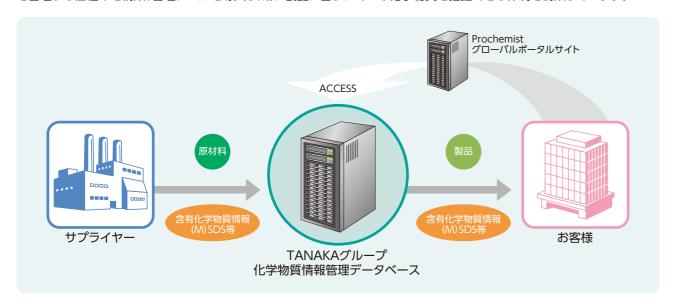
企業理念及び行動指針をISO9001の品質方針として定め、お客様の信頼と期待に応えるためのサービス、支援を行ない、 CSNo.1企業を目指しています。また使用時に、消費者の方々に害を及ぼす危険性の無い製品を提供する等、製品の安全衛生 保護にも力を入れています。

### (製品含有化学物質管理体制の構築)

### 製品含有化学物質管理

近年の科学技術の進歩により、化学物質の人体への影響が少しずつ明らかとなっています。その中で特に長期にわたり人体へ悪影響を与える物質は「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」(化審法)をはじめとする国内法で年々その取り扱いが厳しく制限されるようになり、また海外では、欧州でのREACH規制に代表されるように化学物質を含む製品の輸出入が制限され、さらに一部の有害物質を含む製品はRoHS指令等により輸入が規制されています。そのような環境のもと、企業には、自社製品に使用される化学物質、及びそれが人体に与える影響を常に把握し、お客様や消費者の方に害が及ばないように化学物質管理をきちんと行うことが求められています。

TANAKAグループでは社内プロジェクトを立ち上げ、「製品含有化学物質管理ガイドライン」(第3版)\*に基づいた化学物質を管理する仕組みを構築、管理ツールを導入し、常に製品に含まれている化学物質を把握できる体制を構築しています。



特に供給される原料に関しては、含有化学物資に関する情報をサプライヤー様から供給いただき、それがどの製品にどれだけ使用されているかを(M)SDS等に反映させ、製品とともにお客様に提供しています。これらはデータベース化され、Prochemistやグローバルポータルサイトを通じ、お客様が直接製品情報を入手することができます。

このように化学物質管理はグリーン調達基準などのガイドラインを基に、ISO9001やISO14001の中で管理運用されています。

更に新たな製品を開発する際には、有害となる可能性がある化学物質を使わないよう常に心がけています。

\*\* JAMP(アーティクルマネジメント推進協議会)とJGPSSI(グリーン調達調査共通化協議会)が共同発行した化学物質を管理するしくみのガイドライン。

### 「サンダーバード博」協賛

2013年7月10日から9月23日までの期間、日本科学未来館にて「サンダーバード博」の企画展示が行われました。

1965年にイギリスで誕生した、不朽の特撮作品「サンダーバード」。この「サンダーバード」のストーリーの中で描かれている未来のテクノロジーを現在の先端科学技術と比較する展示の中で、TANAKAグループが取り扱っている産業用貴金属材料の優れた特性を紹介し、「貴金属産業製品のTANAKA」を多くの方々に認知していただきました。



© ITC

### 「宇宙と話そう」若田宇宙飛行士リアルタイム交信協賛

2014年3月25日に六本木アカデミーヒルズにて開催されたこのイベントでは、小学4年生から高校生を対象に、日本人初の国際宇宙ステーション船長、若田宇宙飛行士とリアルタイムで会場を結び、ライブ交信を行うことで子供たちに宇宙を身近に感じてもらいました。

宇宙の誕生にも深く関わっている元素は、貴金属の誕生にも関わっています。宇宙と貴金属、貴金属と産業、そしてTANAKAの貴金属が私たちの暮らしと未来をも支えていることを紹介しました。



### 各種診断キットの開発、製造、販売

貴金属が必要とされる分野は多岐に渡り、医療分野でも活用されています。例えば、インフルエンザの簡易検査キットや妊娠検査薬に代表される診断キットです。診断キットは陰性か陽性かを目視判定するツールであり、目視判定のための発色剤が重要になります。ナノサイズの金コロイドは鮮明な赤色を呈する特徴を持っており、判定を容易にするための発色剤として広く使われています。田中貴金属工業(株)は、長年にわたって培った金コロイドの製造技術を活かし、診断キットに関するさまざまな技術開発を行っています。また、ISO13485システムにより管理された生産体制のもとでOEM製造も行っており、お客様の信頼に応える品質を追求しています。

2014年春からは製造機能を技術開発部門から平塚工場へと移管 し、更なる工程改善に取り組んでいます。より高性能な診断キットの 開発によるQOLへの貢献や、他分野への診断キット技術の応用等へ の取り組みも進めていきます。



コロイド



診断キットサンプル見本

### 銀分析技術に関するISO/IEC17025を日本で初めて認定取得

貴金属市場の価格高騰により、銀は近年、鉱山だけでなくリサイクル品からの供給も増加していることから、より正確で迅速な分析方法の開発・確立が急務となっています。田中貴金属工業(株)TKG分析センター企画開発室では、2011年1月から、分析方法の最適化に取り組み、分析方法の妥当性を確認しながら、銀分析試料の溶解条件の適正化を図り、分析精度を向上させたことで、2013年度には銀地金中の金属類37元素の分析に関してISO/IEC17025:2005の認定を取得することができました。

今回の認定取得により、以前に認定を取得した金、白金、パラジウムを含めて主要な貴金属4元素についての分析に関する ISO/IEC17025:2005の認定取得が完了しました。 『貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と、美しい地球の未来に貢献する』という大きな目標を掲げてさまざまな活動を展開しています。



### 基本的な考え方

「コミュニティへの参画及びコミュニティの発展」のため、地球環境保護・文化芸術発展・地域コミュニケーションに至るまで、「ゆとりある豊かな社会の実現と美しい地球の未来に貢献 | を目指し、グループ各社の強みを活かしてさまざまな活動を行っています。

### 東北復興支援ボランティア

2011年3月11日の東日本大震災以降、東北復興支援ボランティアとしてさまざまな形で活動を行ってきました。第1回は2011年8月、第2回は2012年2月に岩手県・宮城県の被災地を訪れ、泥出し等の支援活動を行いました。第3回は2012年度に「心のケア」として、精神的な支援をもっとも強く求めている子供たちへ、社員から寄せられた絵本を寄贈し、あわせてあしなが育英会への寄付も行いました。



4回目となる東北復興支援ボランティアは、「記憶の継承」をテーマとして、継続的な支援活動を開始しました。避難の目安とするために、津波最高到達地点に、桜並木を作るための植樹活動を継続的に行います。初年度の2013年度は宮城県亘理郡にて30本の桜の苗木を植樹しました。単なる募金活動にとどまらない被災地の方々との交流による支援活動も計画しています。

※植樹した桜は「エドヒガン」で、600年の樹齢を持つと言われています。

### 人材育成・文化芸術の発展

### ○貴金属に関する研究助成金制度

本助成金制度は、「貴金属が拓く新しい世界」へのさまざまなチャレンジを支援するため、1999年度から毎年実施しています。貴金属が貢献できる新しい技術や、商品の実用化に向けての研究・開発について、あらゆる分野から募集した結果、15回目となる今回は合計26件に対し研究助成金を授与しました。

### ○アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト(高専ロボコン)協賛

通称「高専ロボコン」に2012年から協賛しています。応援メッセージ「君のひらめき輝かせ!未来へ発進!」を掲げ、日本のものづくりの未来を担う若者をサポートしています。

### ○家族向け工場見学会

田中貴金属工業(株)湘南工場では2013年7月に社員の家族向け工場見学会を実施しました。 2回目を迎えた今回も子供たちに大変好評で、貴金属のリサイクルについての説明、工場見学を行いました。見学会に参加した子供からの絵画を工場内に展示しました。



### スポーツ振興支援

### ○日本パラリンピック委員会オフィシャルパートナー活動

2012年3月から日本障がい者スポーツ協会(JPSA)が推進する、日本パラリンピック委員会(JPC)のオフィシャルパートナーとして協賛しています。

### ○東京マラソン協賛

GINZA TANAKAは東京マラソンにおいて、2007年の第1回大会以来、毎年大会で贈呈されるメダルを製作しており、2014年で8年目を迎えました。マラソン走者の健闘を称えるメダル製作を担当することでGINZA TANAKAは東京マラソンに積極的に協力します。

### 寄付•募金活動

### ○洗車ボランティア活動

田中エレクトロニクス・シンガポール(TES)では社員がボランティアとして、自主的に集まり社員とサプライヤーの車を洗いました。洗車代に加えて寄付も集まり、地元の福祉施設へ寄付しました。

### ○ピンクリボン活動

GINZA TANAKAは乳がん征圧を目指す「ピンクリボン運動」を支援するために、2009年6月からジュエリーの売り上げの一部を公益財団法人日本対がん協会「乳がんをなくす ほほえみ基金」に寄付しています。



### 地球環境保全を目指す地域での活動

### ○工場近隣の清掃活動

田中電子(杭州)有限公司(TEC)では2012年から毎回20数名で工場近隣の清掃活動を行っています。今後も継続しながら少しずつ活動の範囲を広げていきます。



### ○公園の清掃活動

田中エレクトロニクス・シンガポール(TES)と田中貴金属(シンガポール)(TKSG)でWest Coast Parkの清掃活動を行いました。



### ○海岸の清掃活動

田中貴金属インターナショナル(株)香港支店では、香港郊外の海沿いの公園、海下湾(ハイシャオワン)の清掃活動を行いました。「親親環境一斎行山執垃圾(みんなで一緒にゴミを拾って環境を大切にしよう)」を合言葉に活動を行いました。



### 地域とのコミュニケーション

### ○児童養護施設を訪問サポート

田中電子工業(株)佐賀工場では会社近隣にある児童養護施設『聖華園』で、3ヵ月にわたり男子は野球、女子はバレーボールの練習サポートを行ってきました。男女とも県大会を突破し九州大会へ進むことができました。



多角的なアプローチでリスクに備え、 非常時の事業継続を確保

TANAKAグループは、災害等の非常時においても製品の安定供給への責任を果たすために、耐震対策、 生産拠点の分散配置、本社機能の代替性の確保、決済機能の委譲といった多角的なアプローチで、 事業継続の確保に取り組んでいます。



### BCP/M・リスクマネジメント

### ○「第二の本社」大阪本社の運営

2012年4月に大阪本社を設立し、東京本社と大阪本社 共通の情報システムに基づきグループ全体の管理業務を どちらの本社でも遂行できるようにしています。また、全て のデータを関東と関西それぞれのバックアップ拠点に二重 に保管できるようにしました。

この情報システム環境を基盤にして、国内外における製 品の受注から出荷までの日次業務や管理業務を担うお客 様対応機能、輸出入における実務や管理業務を行う貿易機 能、地金の調達と値決めの実施や売買入力などの業務を担 うトレーディング機能、勤怠管理や給与計算を担う人事給 与機能、出荷業務や物流企業との調整を担う物流機能を両 本社で共有し対応できるようにしています。



### ○災害発生時の決済機能の継続と委譲

お客様に対する製品の安定供給を維持するためには、サプライチェーンの最上流である貴金属地金の安定した調達が 必要です。日常から大阪本社が決済機能をもち、東京本社被災時に決済が継続できることはもちろんですが、災害時には

更に海外拠点にも決済権限を委譲できる体制を構 築しています。大規模災害が発生し日本国内の金 融機関において貸し付けや決済実務が不能となっ た場合でも、2013年10月にシンガポールに設立 した田中貴金属(シンガポール)(株)が現地金融機 関から融資を受け、即座に地金取引の決済代行が 可能となっています。



### ○安定調達及び安定供給

金や銀、プラチナメタルグループなどの貴金属は、耐腐食性が高く化学的に安定しており、加工しやすいため、幅広い分野の 工業用部品として活用されています。

田中貴金属工業(株)は、貴金属材料のコストの低減や安定調達、安定供給を目指し2013年7月に小島化学薬品(株)と業務 提携を行いました。この業務提携により、今後大規模災害発生時には、相互の設備及び製品を相互利用する等の協力体制を構 築し、貴金属化合物の製造及び回収精製事業において、より安定的に製品及びサービス供給が可能となります。また、希少金 属である貴金属地金を相互供給することで、材料の安定調達及び安定供給を目指します。

### セキュリティーの基本的な考え方

「自分の会社は自分で守る」を会社方針とし、2013年6月には 田中貴金属工業(株)各事業場の警備を外部への委託から社員 による警備とし、内製化が完了しました。

来社されたお客様が最初に接触するのは警備員です。お客 様に「信頼と安心」のTANAKAブランドを感じていただき、 TANAKAの資産に対して脅威がなく、従業員が「自信と安心と 安全」に仕事ができることを目指しています。



湘南丁堤警備室

### セキュリティー向上への取り組み

選任された警備員には、警備員として必要な専門知識の習得及び能力の向上を図るため、基本教育・業務別教育を合わせ た新任警備員教育を行っています。さらに、社会人としての基本的な行動様式を学ぶ場として、社内講師による「ビジネスマ ナー講習会」を定期的に開催しています。

社内セキュリティーに関する 情報交換の場として、定期的に 全体会議やリーダー会議を開催 しています。







TANAKA NOW 回 田中貴金属工業(株) 生産機能統括部 セキュリティー(湘南工場) 斎藤 実

社員の安全・安心とTANAKAブランド、すなわち「信頼と安心」という財産を守ることが任務です。 外来者の入出管理(受付)、工場の建屋内や敷地の内外の巡回、緊急時の対応などが主な仕事とな ります。

湘南工場は建屋も多く、まるで立体迷路のように感じ、巡回の時には迷子になりそうと思ったほど です。慣れない作業内容そして昼夜交替勤務のため、睡眠のとり方や体調管理に気をつかいながら のモチベーション維持には苦労しています。

警備は決して警備員だけで行うものではないということ、社員の皆さんの協力や積み重ねが警備の質を上げていくとい うこと等、家庭で行っている火の用心、戸締りと同じようなものと考えています。社員自らがそれぞれの職場の安全・安心を 守ることが会社全体を守ることにつながるのだとの思いで警備業務に励んでいます。

日本広報学会 理事長 日本パブリックリレーションズ協会 理事、 日本経営倫理学会CSR部会会員、環境カウンセラー

### 清水 正道

### 【略歴】

横浜国立大学経済学部卒業。日本能率協会を経て、2014年3月まで淑徳大学経営学部教授。2002年から現職。経産 省、環境省等の委員歴任。現在、日本広報学会理事長、日本パブリック・リレーションズ協会理事を兼務。主要著書に 『環境コミュニケーション』『人にやさしい会社-安全・安心、絆の経営』『広報・PR概論』『CC戦略の理論と実践-環境・ CSR・共生」「環境経営学の扉」「会社員のためのCSR経営入門」「CSRイニシアチブ」「CSRマネジメント」などがある。

本欄の意見は、本報告書記載内容及びTANAKAグループのCSR推進部の担当者へのヒヤリングや富岡工場の見学を行 ったうえで執筆しました。

TANAKAグループのCSR活動は、グローバル企業として成長・発展を目指すうえで不可欠の活動であるとの認識のもと、社 会的責任に関する国際規格「ISO26000」に例示された中核主題7項目にTANAKA独自のセキュリティー・BCP/M・リスクマネ ジメントを加えた10項目にわたる幅広い取り組みが特徴であり、事業特性にふさわしい取り組み内容です。

### 2014年版の特徴

1つめは報告の基本要件を満たす工夫が行われているこ とです。まず冒頭の頁に、企業理念や事業概要に加えて業 績概要、報告対象期間や範囲等が記載してありますので、 読者が報告内容をよりよく理解することができるようにな ったと思われます。

2つめは、トップメッセージにおいて、2014年度から開始 される新中期経営計画とCSR活動の関係を「グローバル企 業として成長・発展するためにはCSRの推進が不可欠と明 確に指摘していることです。CSR活動はすぐに結果が見え るようになるものではありません。まさに中期計画と連動し て取り組むことが求められるだけに大切な考え方です。

3つめは、トップメッセージで過年度計画の目標であった CO2や産業廃棄物削減の達成状況を具体的に報告してい ることです(P2~3)。さらに従来からの環境配慮の方針・目 標、実績等の報告(P12~15)に加えて、新たに労働慣行に おいて育児休暇や障がい者雇用、リーダーシップ研修実績 (P9)、労働災害や交通安全に向けた目標や実績(P10~ 11)が具体的な数値をもとに報告されていることです。富 岡工場の現場で拝見したKYT(危険予知訓練)の帳票によ って、上司と部下との職場で緊密なコミュニケーションが成 果を上げていることも確認できました。

4つめとして、報告書に対するアンケートや第三者所感に 対する責任者の見解や指摘内容の反映・活用状況が掲載さ れるようになったことです(P25)。

5つめとして、現場で製品や人との安全を担う方々の声を 紹介している(P10、13、14、17、23)ことも好感が持てます。

CSR報告書は、企業の財務報告や業務報告とは異なる視 点から眺めた仕事の現状報告であるとともに、近未来の仕 事創造の源泉です。近未来への夢は、トップ、役員・管理者 だけでなく、従業員等一緒に働く人々の自覚や意欲、さらに 周辺地域や遠く世界各地にいる取引先やお客様といった多 様な価値観をもつ人々の積極的な協力があってこそ具現 化します。

その意味で、この報告書はコミュニケーションの起点で あり、コミュニケーションの宝庫です。この報告書からどの ようなコミュニケーションが生まれ、新たな成果となって結 実するのかを見守りたいと思います。

### 貴金属のリーディングカンパニーとして期待したいこと

新中期経営計画の到達点である2020年は東京オリン ピック/パラリンピックが開催される年であるとともに、こ の頃からさらに少子高齢化や過疎化などが進み、日本の 人口構造が大きく変わり始めると言われています。このよ うな世紀的な変化を政府や自治体だけで対応することは 不可能であり、全ての組織や、全ての人々が「何ができる かりを問われることになるでしょう。

CSRの「責任」という言葉には「責任を担う能力がある」 という意味もあるとされています。私は富岡工場という限 られた現場を見学しただけですが、そこは金属を扱う工 場なのにまるで食品工場のような光景に見えましたし、世 界中から資源が集まっていることも知りました。世界中の 同業他社やお客様から不可欠の存在であると認められた い、とする皆様には、グローバルな事業展開と同様に、CS R活動においても「管理範囲」での取り組みから「影響範 囲」での取り組みに拡大していく十分な能力があると思 います。TANAKAグループで、さらに幅広い取り組みが 行われるよう期待してやみません。

### TANAKAグループより

TANAKAグループのCSR報告書は、環境報告書から 産声を上げ、2011年版からはISO26000を基軸とした 構成としています。10周年を迎えた昨年の2013年版か らは表紙デザインを刷新し、2年目を迎えた2014年版は、 海外拠点のCSR活動を積極的に取り上げています。これに より、TANAKAグループが、新たな中期経営計画である "GOGO計画2020"に基づく活動の中で、CSR活動におい ても"グローバル企業"に向け積極的に展開していることを 読者の皆様にご理解いただけると考えております。また読 者の方々からいただいた2013年版へのアンケートの結果 や清水先生からいただいた第三者所感に対しては、2014年 版へ反映させていただきました。皆様より、貴重なご意見を いただき、あらためて御礼申し上げます。2014年版におき ましても、いただきましたご意見は次年度以降に反映させて いきたいと考えております。

第三者所感のご意見の中で特に"CSR活動においても 「管理範囲」での取り組みから「影響範囲」での取り組みに拡 大していく"というお言葉は、まさに企業理念の中にも謳わ れております貴金属のリーディングカンパニーとして進むべ き道を表す言葉であり、今後のCSR活動に反映させていき たいと考えております。

最後に、本年度の第三者所感で清水先生からいただいた ご意見から、弊社が進めているCSR活動が"次世代への贈り 物"として、正しい方向に進んでいることをご評価いただい

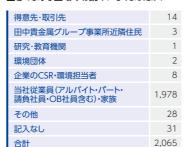
ているとあらためて感じておりま す。今後もCSR活動を中期経営計 画と連動させ、グローバルな活動 へと展開して行きたいと考えてお ります。



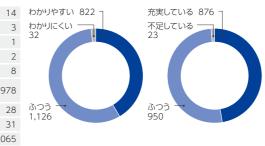
CSR·広報本部 副本部長 佐藤 英昭

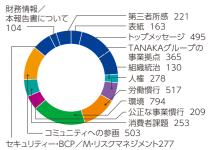
### アンケート結果

### ■どのような立場でお読みになりましたか?



## ■読みやすさはどうでしたか? ■内容の充実度はいかがでしたか? ■特に興味を持たれた記事は何ですか?(複数回答可)





### 2013年版第三者所感を受けて

第三者所感	反映·活用状況
障がい者雇用率を達成できたのはなぜか?	小集団活動でのテーマとして取り上げ、アスペルガー症候群の方をトライアル雇用したり、知的障がい者の工場実習を受け入れるなどの試みを実施したことによります。
モノ造り大学での新入社員教育の具体的カリキュラムは?	2013年版P09で紹介したとおりです。
多彩な人財育成でどんな能力が獲得されたのか?	例えば、リーダーシップ研修では「自主独立性」「影響力」「決断力」等の評価が上昇したとの結果を得ています。
安全文化の評価手段とはどんなものなのか?	IAEA、JNES等が提唱している評価手法で、「組織統率、責任関与、相互理解、動機付け、資源管理・・・」で構成される評価項目による従業員へのアンケート調査による評価です。TANAKAでは試験的に安全衛生委員へのアンケートを行いました。
法令基準の2分の1を限度とする厳しい基準設定とあるが、 たとえば自然河川への排出基準値は?	富岡工場ではほう素10mg/L(富岡市との協定で水質汚濁防止法は25mg/L)に対し、5mg/Lを自主基準値として 管理しています。
環境会計のデータは例年掲載されているが、 経営組織においてどのように活用されているのか?	廃棄物量を例にとると排出した絶対量だけを議論するのではなく、個々にコスト意識を持って活動する為に環境会計(廃棄物処理費用)を手段として利用し、経営委員会等で議論されています。
CO <sub>2</sub> 排出削減目標を上回る実績は、どのように達成されたのか?	一人ひとりの節電(コツコツ活動)と高効率設備への置き換えの両輪を上手く回して、達成しました。
工場ではPRTR法対象物質が使用されて いるので環境異常(15項)の原因になっていないのか?	環境異常の直接的原因にはなっていません。
環境負荷INPUT量では電気・都市ガス・重油・ 上水の使用量の減少は各事業所でどのような努力によるのか?	【電気、都市ガス、重油について】 これらはアウトプットとして、CO2となります。 CO2削減活動として努力してきた結果です。
廃棄物削減が2年度にわたって大幅未達となっているのは、 目標設定の問題なのか、それとも取り組み方法の問題なのか?	化学回収事業部(市川/湘南/袖ヶ浦)で計画した設備投資、設備稼働が遅れた為です。現在は設備稼動し、廃棄物 削減活動は順調に進んでいます。
社内通報制度の利用件数は?	2013年度の利用件数は8件でした。